

2024年3月期 第2四半期 連結決算概況と通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 社長兼CEO シュテファン・カウフマン 執行役 CFO 武田 睦史 | 2023年11月9日

(スライド1)

- CFOの武田でございます。
- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2024年3月期 第2四半期 決算説明会」にご参加いただき、誠に有難うございます。
- 私から2024年3月期 第2四半期の連結決算概況および通期業績見通しについて、ご説明申し上げます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ハイライト

第2四半期及び累計実績

✓ 地域別では全分野で成長したアジア・オセアニア、セグメント別では医療サービスが好調に推移し、増収。成長投資や事業運営基盤強化、効率性向上のためのプロジェクト費用に加え、Veran Medical Technologies社関連の損失計上などにより減益

- 売上高： 連結で+5%成長。医療分野は2Q及び累計において過去最高の売上高
- 調整後営業利益： 効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用の増加に加え、将来の成長やQARAをはじめとする事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加などにより、減益
- 当期利益*： 科学事業（エビデント）の譲渡に伴う譲渡益を計上し、過去最高の2,163億円、EPSは174円
- その他： FDAと建設的な対話を行いつつ、警告書によって指摘された課題への対処は順調に進捗

通期業績見通し

✓ 社内外のさまざまな要因により減益の見通しだが、特定した成長阻害要因への対策を着実に講じるとともに、持続的な成長に向けた投資を継続する

- 売上高： 前期比9%増の9,580億円を見込む
- 調整後営業利益： 前期比1%減の1,745億円、調整後営業利益率は18.2%を見込む
- 当期利益*： エビデントの譲渡益を計上し過去最高の2,890億円、EPSは238円となる見通し
- 株主還元： 800億円の自己株式の追加取得を決定（2024年3月期通期では、総額1,800億円）

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS。2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

(スライド3)

- 2024年3月期 第2四半期決算における主なポイントです。
- 売上高は連結で5%増加し、医療分野は第2四半期及び累計としても過去最高の売上高となりました。
- 一方で、前期に計上した東京都内の土地の売却益約164億円がなくなったことに加え、Veran Medical Technologies社の電磁ナビゲーションシステムなどの製造・販売終了に伴う損失約496億円の計上、内視鏡事業での小腸内視鏡システムなどの自主回収に伴う費用約50億円の引当計上や、効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用の増加に加え、将来の成長やQARAをはじめとする事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加などにより、減益となりました。
- 米国食品医薬品局（FDA）関連対応費用は、販管費で約10億円、その他費用で約119億円発生しました。主な内容は、コンプライアンス対応や医療機器報告（MDR）、プロセスおよび設計の検証となり、FDAをはじめとした各国当局の医療機器に対する品質保証機能を強化することを目的としています。これまで、FDAとは建設的な対話を行っており、警告書によって指摘された課題への対処は順調に進捗しています。
- その他損益を除外した調整後営業利益は▲16%の減益、調整後営業利益率は15.2%です。
- 継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は、科学事業（エビデント）の譲渡益を当期第1四半期に計上し、過去最高の2,167億円、EPSは174円となりました。
- 続いて2024年3月期の通期業績見通しです。
- 前回見通しから為替前提の変更に加え、第2四半期までの実績を踏まえた修正を行いました。
- 売上高は、前期比9%増の9,580億円、調整後営業利益は前期比1%減の1,745億円を見込んでいます。調整後営業利益率は18.2%となる見通しです。
- 継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は、過去最高の2,890億円、EPSは238円となる見通しです。
- また、本日、適時開示でお知らせの通り、当社のキャピタルアロケーションの方針に沿って、800億円の自己株式の追加取得を決定しました。2024年3月期における自己株式の取得価額の総額は1,800億円を予定しています。
- 2024年3月期は、社内外のさまざまな要因により減益の見通しとなりますが、特定した成長阻害要因への対策を着実に講じるとともに、持続的な成長に向けた先行投資も引き続き行ってまいります。なお、この点については後ほど、CEOのStefan Kaufmannよりお話しさせていただきます。



01

2024年3月期 第2四半期 連結業績および事業概況

(スライド4)

- それでは、2024年3月期 第2四半期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

2024年3月期 第2四半期実績 ①連結業績概況

- 1 売上高：連結で+5%成長。医療分野は2Q及び累計において過去最高の売上高
- 2 調整後営業利益：効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用の増加に加え、将来の成長や事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加などにより、減益
- 3 当期利益*：科学事業（エビデント）の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の2,163億円、EPSは174円

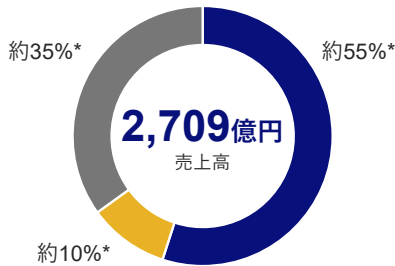
	第2四半期累計実績（4-9月）				第2四半期実績（7-9月）						
	（単位：億円）	FY2023	FY2024	前期比	為替影響調整後	FY2023	FY2024	前期比	為替影響調整後		
** 継続事業	売上高	4,171	4,366	▲1	+5%	0%	2,248	2,289	+2%	▲2%	
	売上総利益 （売上総利益率）	2,775 (66.5%)	2,884 (66.1%)		+4%	▲2%	1,518 (67.5%)	1,512 (66.1%)	0%	▲5%	
	販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	1,985 (47.6%)	2,216 (50.8%)		+12%	+7%	1,025 (45.6%)	1,129 (49.3%)	+10%	+5%	
	その他の収益および費用など	146	▲620		-	-	▲2	▲560	-	-	
	営業利益 （営業利益率）	936 (22.4%)	48 (1.1%)		▲95%	▲99%	491 (21.8%)	▲177	-	-	
	調整後営業利益 （調整後営業利益率）	794 (19.0%)	666 (15.2%)	▲2	▲16%	▲24%	496 (22.1%)	383 (16.7%)	▲23%	▲26%	
	税引前利益 （税引前利益率）	893 (21.4%)	▲10	▲903億円			473 (21.0%)	▲207	▲679億円		
	継続事業からの当期利益 （継続事業からの当期利益率）	695 (16.7%)	▲115	▲810億円			416 (18.5%)	▲250	▲666億円		
	非継続事業からの当期利益	▲26	2,281	+2,307億円			4	10	+6億円		
	当期利益	669	2,167	+224%			420	▲240	▲660億円		
親会社の所有者に帰属する当期利益	668	2,163	▲3	+224%		420	▲243	▲662億円			
EPS	53円	174円				-	-				

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
 **「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
 ***2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

（スライド5）

- まず、連結業績の概況です。
- 連結売上高は4,366億円です。医療分野は第2四半期及び累計としても過去最高の売上高となり、連結で5%の成長となりました。内視鏡事業、治療機器事業、その他事業の全ての事業で増収です。地域別では全分野で成長したアジア・オセアニアが引き続き牽引し、セグメント別では医療サービス、消化器科処置具が好調に推移しています。
- 売上総利益は2,884億円、売上総利益率は0.4ポイントの悪化です。半導体のスポットマーケットでの調達が減少したものの、内視鏡事業で小腸内視鏡システムなどの自主回収に伴う費用約50億円を引当計上したことなどにより、悪化しました。
- 販管費は2,216億円、販管費比率は3.2ポイントの悪化です。主な要因は、効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用の増加や、将来の成長やQARAをはじめとする事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加です。
- 調整後営業利益は666億円、前期比で128億円、16%減少しました。調整後営業利益率は3.8ポイント悪化し、15.2%でした。
- その他の損益などは▲620億円です。Veran Medical Technologies社の電磁ナビゲーションシステムなどの製造・販売終了に伴う損失約496億円や、FDA関連対応費用約119億円を計上しました。前期は、東京都内の土地の売却益約164億円を計上するなど146億円のプラスでした。
- 継続事業の当期利益は▲115億円となりました。2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を当期第1四半期に計上し、継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は2,167億円、EPSは174円となりました。

2024年3月期 第2四半期実績 ②内視鏡事業



(単位: 億円)	FY2023		FY2024	
	2Q	2Q累計	2Q	2Q累計
売上高	1,416	2,585	1,437	2,709
営業利益	441	689	287	509
その他の損益**	▲2	▲14	▲44	▲78
調整後営業利益	443	703	332	587
営業利益率 (為替影響調整後)	31.1%	26.7%	20.0% (19.8%)	18.8% (17.7%)
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	31.3%	27.2%	23.1% (22.9%)	21.7% (20.6%)

FY2024 vs FY2023 (7-9月) 売上高成長率

為替影響 調整後

円ベース 為替込み

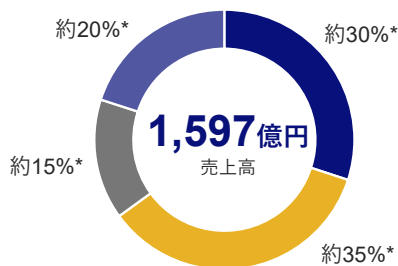
■ 消化器内視鏡	▲8%	投資抑制などが見られた欧州と、「EVIS X1」発売前の買い控えが継続している北米において特にマイナス成長	▲5%
■ 外科内視鏡	▲5%	特に事業環境が厳しい中国において減収。新製品の外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」を発売した日本、欧州、アジア・オセアニアは好調に推移	▲2%
■ 医療サービス	8%	保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加もあり、中国をはじめ全地域でプラス成長	14%
合計	▲3%		1%

*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります / **決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

(スライド6)

- 各セグメントの概況について、ご説明します。
- まず内視鏡事業です。売上高は2,709億円、円ベースで5%、為替影響調整後で1%のプラス成長でした。その他の収益/費用を除外した調整後営業利益は587億円、調整後営業利益率は21.7%でした。
- 前年の第1四半期に上海ロックダウンなどの影響を受けていた中国で売上が回復したことに加え、医療サービスが好調に推移した一方、前年同期に大型案件による押し上げ効果のあった欧州と「EVIS X1」発売前の買い控えの影響があった北米で減収し、為替影響調整後の売上高は前年から微増にとどまりました。小腸内視鏡システムなどの自主回収に伴う費用約50億円などを引当計上したことに加え、将来の成長やQARAをはじめとする事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加などにより、調整後営業利益は減益でした。その他の費用では、今期FDA関連対応費用として約76億円を計上しています。
- 各分野の第2四半期（7-9月）の事業概況についてお話しします。
- 消化器内視鏡では、投資抑制などが見られた欧州と、「EVIS X1」発売前の買い控えが継続している北米で、特にマイナス成長となりました。
- なお、第2四半期における「EVIS X1」シリーズの売上割合は、消化器内視鏡のサブセグメントの中で約15%となっています。
- 外科内視鏡では、特に事業環境が厳しい中国において減収となりました。一方で、新製品の外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」を発売した日本、欧州、アジア・オセアニアは好調に推移しています。
- 医療サービスでは、保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加などもあり、中国をはじめ全地域でプラス成長となりました。

2024年3月期 第2四半期実績 ③治療機器事業



(単位: 億円)	FY2023		FY2024	
	2Q	2Q累計	2Q	2Q累計
売上高	806	1,529	825	1,597
営業損益	164	298	▲382	▲285
その他の損益**	1	▲1	▲528	▲547
調整後営業利益	163	299	145	261
営業利益率 (為替影響調整後)	20.4%	19.5%	-	-
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	20.2%	19.6%	17.6% (18.2%)	16.4% (16.1%)

FY2024 vs FY2023 (7-9月)
売上高成長率

為替影響
調整後

円ベース
為替込み

■ 消化器科 (処置具)	6%	■ 北米を中心にプラス成長。ERCP、ESD・EMR、止血用の製品群の売上が拡大	11%
■ 泌尿器科	▲4%	■ 北米や日本において、主要製品を含み一時的な出荷停止や供給不足が発生した影響などにより減収。BPHで主に使用される切除用電極は引き続き販売が拡大	1%
■ 呼吸器科	▲2%	■ 一部製品の供給不足などが発生した中国と、前年COVID関連の補助金効果が見られた日本で減収	2%
■ その他の治療領域	▲9%	■ 欧州でのGyrus Medical社の売却などに伴い減収	▲5%
合計	▲2%		2%

*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります / **決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

(スライド7)

- 治療機器事業です。売上高は1,597億円、円ベースで4%のプラス成長、為替影響調整後では前年と同水準でした。その他の収益/費用を除外した調整後営業利益は261億円、調整後営業利益率は16.4%でした。
- 品質対応、部材不足に伴う供給遅延や、Veran Medical Technologies社製品の販売終了および子会社の売却に伴う売上減少などにより、為替影響調整後の売上高は前年と同水準にとどまりました。調整後営業利益は、効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用や、将来の成長やQARAをはじめとする事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加などにより減益です。その他の費用では、今期Veran Medical Technologies社の電磁ナビゲーションシステムなどの製造・販売終了に伴う損失約496億円や、FDA関連対応費用約43億円を計上しています。
- 各分野の第2四半期（7-9月）の事業概況についてお話しします。
- 消化器科処置具では、北米を中心にプラス成長となりました。膵管や胆管などの内視鏡診断・治療に使用するERCP（Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography/内視鏡的逆行性胆道膵管造影術）用、病変の切除に使用されるESD（Endoscopic Submucosal Dissection/内視鏡的粘膜下層剥離術）・EMR（Endoscopic Mucosal Resection/内視鏡的粘膜切除術）用、止血用の製品群売上が拡大しています。
- 泌尿器科では、北米や日本において、主要製品を含み一時的な出荷停止や供給不足が発生した影響などにより減収となりました。BPH（Benign Prostatic Hyperplasia/前立腺肥大症）で主に使用される切除用電極は引き続き販売が拡大しました。
- 呼吸器科では、一部製品の供給不足などが発生した中国と、前年COVID関連の補助金効果が見られた日本において減収となりました。
- その他の治療領域では、欧州でのGyrus Medical社の売却などに伴い、売上が減少しています。

財政状態計算書

- ☑ 主にエビデント譲渡による現金・利益の増加により、バランスシートは為替影響（約890億円）を除いて実質約205億円増加
- ☑ エビデントの株式譲渡完了に伴い、売却目的で保有する資産および、それに直接関連する負債の額が変動
- ☑ Veran Medical Technologies社の減損を主因にのれん・無形資産が減少

(単位：億円)	2023年3月末	2023年9月末	増減額		2023年3月末	2023年9月末	増減額
流動資産	7,264	9,218	+1,954	流動負債	4,619	4,233	▲386
棚卸資産	1,630	1,834	+204	社債および借入金	500	1,000	+500
売却目的で保有する資産	1,696	-	▲1,696	売却目的で保有する資産に直接関連する負債	433	-	▲433
非流動資産	7,820	6,960	▲860	非流動負債	4,052	3,670	▲382
有形固定資産	2,387	2,531	+143	社債および借入金	2,901	2,485	▲416
無形資産	1,152	996	▲155	資本	6,412	8,275	+1,863
のれん	1,825	1,823	▲2	自己資本比率	42.4%	51.2%	+8.8pt
資産 合計	15,083	16,178	+1,095	負債および資本合計	15,083	16,178	+1,095

(スライド8)

- 2023年9月末の財政状態です。
- バランスシートは1,095億円増加していますが、そのうち約890億円が為替の影響となり、実質約205億円の増加となります。
- Veran Medical Technologies社の減損を主因にのれん・無形資産が減少したものの、エビデント譲渡による現金・利益の増加が主な要因です。
- エビデントの株式譲渡完了に伴い、「売却目的で保有する資産」は1,696億円減少し、「売却目的で保有する資産に直接関連する負債」は433億円減少しました。
- 自己資本比率は前期末比で8.8ポイント増加し、51.2%となりました。

連結キャッシュフロー計算書

☑ FCF： エビデント譲渡益などに係る法人税の支払を主要因に営業CFが減少したものの、エビデントの株式譲渡対価の受領などにより、FCFは大幅増。特殊要因を考慮した調整後FCFは177億円のプラス

☑ 財務CF： 自己株式の取得や配当金支払を主要因に、1,254億円のマイナス
第2四半期実績（4-9月）

(単位：億円)		FY2023	FY2024	増減	
継続事業	非継続事業	税引前利益	893	▲10	▲903
		営業キャッシュフロー	273	▲118	▲391
		投資キャッシュフロー	▲157	4,127	+4,284
		フリーキャッシュフロー	116	4,009	+3,893
		調整後フリーキャッシュフロー	162	177	+15
		財務キャッシュフロー	▲355	▲1,254	▲900
		現金および現金同等物期末残高	2,974	4,882	+1,908

2023年3月期第2四半期（4-9月）の主な特殊要因

営業CF：科学事業の分社化に伴う税金支出	▲152億円
投資CF：固定資産（土地）の売却による収入	+191億円
投資CF：投資有価証券の取得	▲35億円
投資CF：科学事業の分社化に伴う投資・一時的な資金負担	▲49億円

2024年3月期第2四半期（4-9月）の主な特殊要因

営業CF：エビデント株式譲渡益に伴う法人税の支払	▲567億円
投資CF：エビデント株式譲渡対価などの受領	+3,879億円
投資CF：エビデントに対する貸付金の回収	+520億円

（スライド9）

- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、118億円のマイナスとなりました。エビデント譲渡益などに係る法人税の支払を主要因に減少となりました。
- 投資キャッシュフローは、4,127億円のプラスとなりました。エビデントの株式譲渡対価などの受領や、エビデントに対する貸付金の回収などにより増加しています。
- フリーキャッシュフローは、4,009億円のプラスです。事業取得、譲渡、再編など特殊要因を考慮した調整後の営業キャッシュフローは449億円のプラス、調整後のフリーキャッシュフローは177億円のプラスとなりました。
- なお、Veran Medical Technologies社の電磁ナビゲーションシステムなどの製造・販売終了に伴う損失は、のれん、無形資産の減損が主要因のためキャッシュフローへの影響は軽微となります。私たちの消化器内視鏡ビジネスを軸とした、安定したキャッシュ創出力に変化はありません。
- 財務キャッシュフローは、1,254億円のマイナスとなりました。自己株式の取得や配当金の支払いを行ったことが主要因です。
- 結果、2023年9月末の現金および現金同等物残は1,908億円増の4,882億円となりました。



02

2024年3月期 通期業績見通し

(スライド10)

- 次に、2024年3月期の通期業績見通しについてご説明申し上げます。

通期業績見通し ①連結業績

- 1 売上高： 前期比9%増の9,580億円を見込む
- 2 調整後営業利益： 前期比1%減の1,745億円、調整後営業利益率は18.2%を見込む
- 3 当期利益*： エビデントの譲渡益を計上し過去最高の2,890億円、EPSは238円となる見通し
- 4 株主還元： 800億円の自己株式の追加取得を決定（2024年3月期通期では、総額1,800億円）

		(単位：億円)		2024年3月期 8月9日公表見通し	2024年3月期 最新見通し	増減	前回 見通し比	為替影響 調整後	2023年3月期 通期実績	前期比	為替影響 調整後
** 継続事業	売上高	9,140	1	9,580	+440	+5%	▲2%	8,819	+9%	+3%	
	売上総利益 (売上総利益率)	6,270 (68.6%)		6,500 (67.8%)	+230	+4%	▲3%	5,968 (67.7%)	+9%	+2%	
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,460 (48.8%)		4,760 (49.7%)	+300	+7%	+1%	4,205 (47.7%)	+13%	+8%	
	その他の収益および費用など	▲180		▲740	-	-	-	103	-	-	
	営業利益 (営業利益率)	1,630 (17.8%)		1,000 (10.4%)	▲630	▲39%	▲46%	1,866 (21.2%)	▲46%	▲54%	
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,820 (19.9%)	2	1,745 (18.2%)	▲75	▲4%	▲14%	1,768 (20.0%)	▲1%	▲12%	
	税引前利益 (税引前利益率)	1,590 (17.4%)		920 (9.6%)				1,823 (20.7%)			
	継続事業からの当期利益	1,150 (12.6%)		610 (6.4%)				1,380 (15.7%)			
	非継続事業からの当期利益	2,210		2,280				56			
	当期利益	3,360		2,890				1,436			
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	3,360 (36.8%)	3	2,890 (30.2%)				1,434 (16.3%)				
EPS	273円		238円				113円				
				2024年3月期配当							
				年間配当18円を予定							

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
 **「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
 ***2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

(スライド11)

- 2024年3月期の通期業績見通しです。
- 前回見通しから為替前提の変更に加え、第2四半期までの実績を踏まえた修正を行いました。
- なお、業績見通しの前提となる想定為替レートは、1ドル145円、1ユーロ155円としています。
- 売上高は前期比9%増の9,580億円、調整後営業利益は前期比1%減の1,745億円、調整後営業利益率は18.2%となる見通しです。
- 円安の追い風はある一方で、社内外のさまざまな要因により厳しい業績を想定しています。
- 当期利益は、エビデントの譲渡に伴う譲渡益を計上し、過去最高の2,890億円、EPSは238円となる見通しです。また、継続事業の当期利益は610億円、継続事業のEPSは50円を見込んでいます。
- なお、資本的支出は第2四半期までの実績や円安の影響を踏まえ、投資対象の見直しを行い、前回見通しから修正した780億円となっています。
- 2024年3月期末の配当は、5月に公表した配当予想を据え置き、18円を予定しております。
- また本日、800億円を上限とする自己株式の追加取得を実施するとお知らせしました。今、ご紹介したEPSは、本自己株式取得を反映した数字となっています。年間での自己株式の取得価額の総額は1,800億円を予定しています。

通期業績見通し ②セグメント別業績

- 1 内視鏡事業： 米国と中国で「EVIS X1」を販売開始。中国での反腐敗運動による入札活動の遅れや、自主回収費用の引当計上などを考慮し、下方修正
- 2 治療機器事業： 供給遅延などに伴う売上減少に加え、Veran Medical Technologies社関連の損失の計上などを考慮し、下方修正
- 3 非継続事業： エビデントの譲渡益を計上し、前期から大幅増益を見込む

(単位：億円)		2024年3月期 8月9日公表見通し	2024年3月期 最新見通し	増減	前回 見通し比	為替影響 調整後	2023年3月期 通期実績	前期比	為替影響 調整後
内視鏡	売上高	5,720	6,040	+320	+6%	▲1%	5,518	+9%	+3%
	営業利益	1,580	1,500	▲80	▲5%	▲15%	1,528	▲2%	▲12%
治療機器	売上高	3,290	3,420	+130	+4%	▲3%	3,182	+7%	+1%
	営業損益	560	▲45	▲605	▲605億円	▲587億円	637	▲682億円	▲689億円
その他	売上高	130	120	▲10	▲8%	▲12%	119	+1%	▲4%
	営業損益	10	10	0	-	-	▲9	+19億円	+19億円
全社・消去	営業損益	▲520	▲465	+55	+55億円	+72億円	▲289	▲176億円	▲161億円
連結合計	売上高	9,140	9,580	+440	+5%	▲2%	8,819	+9%	+3%
	営業利益	1,630	1,000	▲630	▲39%	▲46%	1,866	▲46%	▲54%
(参考) 非継続事業	売上高	0	0	-	-	-	1,354	-	-
	営業利益	3,470	3,480	+10	-	-	70	-	-

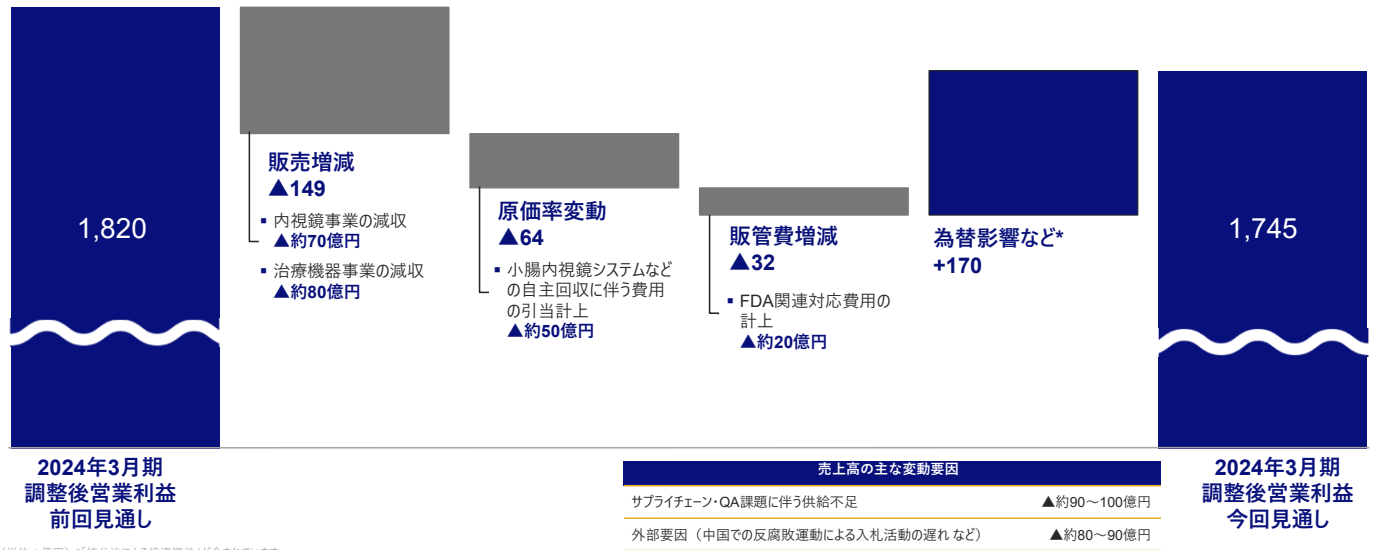
*2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

(スライド12)

- セグメント別の業績見通しです。
- まず、内視鏡事業は、中国での反腐敗運動による入札活動の遅れや小腸内視鏡システムなどの自主回収に伴う費用の引当計上などを考慮し、8月にお示した見通しから営業利益を引き下げています。2023年10月以降、最大の市場である北米に加え、中国で「EVIS X1」の販売を開始し、今後の業績拡大のドライバーとして期待しております。
- 続いて、治療機器事業につきましても、品質対応、部材不足に伴う供給遅延に加え、第2四半期にVeran Medical Technologies社関連の損失約496億円を計上したことなどに伴い、前回の見通しから営業利益を引き下げています。
- なお、FDA関連対応費用は、通期で販管費約90億円、その他費用約200億円発生する見込みです。
- 全社消去については、対前年では2023年3月期において計上した東京都内の土地の売却益約164億円などがなくなることに加え、IT関連などのコーポレート基盤強化のための費用などが増加する見込みですが、前回の見通しからは個々の案件の費用負担の見直しにより営業損益が改善すると見えています。
- 非継続事業は、エビデントの譲渡益を計上し、前期から大幅な増益を見込んでいます。

2024年3月期業績見通し 連結調整後営業利益増減要因（前回見通し比）

2024年3月期通期 8月9日公表見通し比



(単位：億円) *「持分法による投資損益」が含まれています

(スライド13)

- こちらのスライドでは、前回見通し比の調整後営業利益の増減要因をお示ししています。
- すでにご説明の通り、今期はさまざまな要因によって厳しい状況が続いております。売上の減少や、一部製品の自主回収に伴う費用の引当計上、FDA関連対応費用などの計上により、調整後営業利益は1,745億円となる見込みです。
- 営業利益の増減要因についてはAppendixに掲載しておりますので、ご参照ください。
- それでは続いて、CEOのStefan Kaufmannよりご説明させていただきます。

03

世界をリードするメドテックカンパニー に向けて

(スライド14)

- CEOのStefan Kaufmannです。本日は、オリンパスの社長兼CEOとして、オリンパスの現状に加え、中長期的にすべてのステークホルダーの皆さまのために成長と価値創造を持続していくための私たちの取り組みについて、皆さまにお伝えしたいと思います。

Key Message

- 1** FDAから受領した3通の警告書に関する全ての課題を改善し、患者さんの安全と品質に最も重点を置き、業界最高水準のグローバル・メドテックカンパニーに変革していくことを最優先課題として認識。FDA指摘事項への対応と将来に向けた変革はどちらも順調に進捗
- 2** 中長期的に目指す成長と利益率は、2024年3月期の水準を大きく上回る見通し
- 3** 株主価値を持続的に向上し、資本効率を改善していく



(スライド15)

- 私たちの最優先課題は、FDAから受領した3通の警告書に関する全ての課題を改善し、患者さんの安全と品質に最も重点を置いた業界最高水準のグローバルメドテックカンパニーに変革することです。また、FDAからの指摘事項への対応および将来的により革新的で高品質な製品とソリューションを効率的且つ迅速に市場投入するための変革はどちらも順調に進捗しています。
- 5月の経営戦略でも申し上げましたが、いくつかの改善活動は短期的に成長と収益性に影響します。
- 今期は為替による押し上げ効果がありますが、中長期的に目指す成長と利益率は、2024年3月期の水準を大きく上回ると考えています。
- また、オリンパスは株主の皆さまから信頼される企業でありたいと考えています。引き続きキャピタルアロケーションポリシーに沿って、今期、そして将来も、株主価値を持続的に向上し、資本効率を改善していきます。
- ここからは、今後のオリンパスの方向性についてご理解を深めていただけるよう、それぞれのポイントについて詳細をご説明します。

基本的な指針

持続的な成長に向けた経営戦略

基本的な指針

患者さんの安全と
持続可能性



- 1 米食品医薬品局（FDA）に対するコミットメントを遂行し、各国規制当局との信頼関係を構築
- 2 健やかな組織文化とESGを推進

成長のための
イノベーション



- 3 オリンパスブランドの強化、顧客体験価値向上
- 4 戦略的なイノベーション・買収を通じた事業の成長

生産性の向上



- 5 患者さんの安全と製品の品質を重視したパフォーマンスの高い組織を構築
- 6 効率的で無駄のない経営

戦略的な価値の源泉



事業拡大と
グローバル展開



戦略的M&A



ケア・パスウェイの強化



インテリジェント
内視鏡医療エコシステム

Page 17 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

“

世界の人々の健康と安心、
心の豊かさの実現

”

(スライド17)

- 経営戦略を簡単に振り返りたいと思います。
- 私たちは3つの基本的な指針を定めています。
 - － 患者さんの安全と持続可能性
 - － 成長のためのイノベーション
 - － 生産性の向上
- また、4つの戦略的な価値の源泉に投資をしています。
 - － 事業拡大とグローバル展開
 - － 戦略的M&A
 - － ケア・パスウェイの強化
 - － インテリジェント内視鏡医療エコシステム
- 加えて、3つの注力領域への資源配分と投資を優先します。
 - － 消化器科
 - － 泌尿器科
 - － 呼吸器科

総合的な変革プログラムを開始

“

変革に必要なケイパビリティの強化、医療水準の向上およびアウトカムの改善、そして組織全体での成長を目指す”

過去を見直し、現状を改善

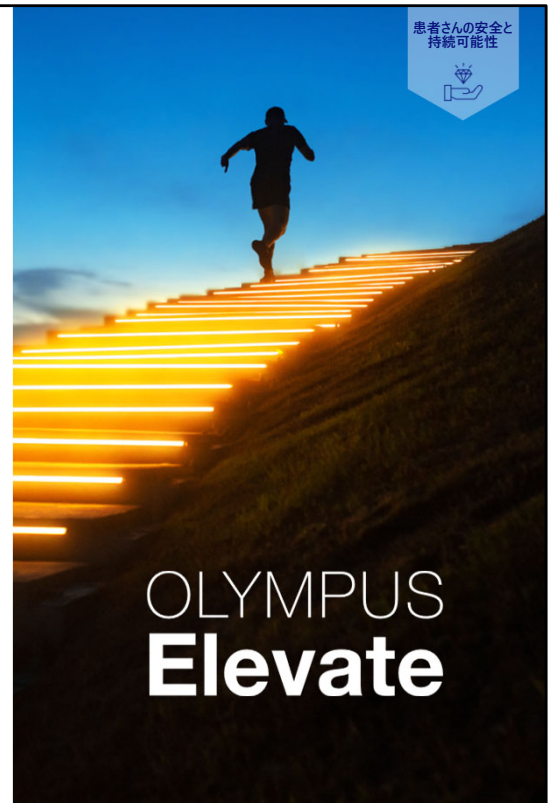
警告書によって指摘されたすべての課題に対して、効果的かつ迅速に対応を進め、再発防止に努める

+ 将来成長に向けた基盤構築

部門横断的な取り組みとオーナーシップにより、今後の品質向上に繋がる根本原因の改善に積極的に取り組む



- 製品のライフサイクルマネジメントの改善
- 業務プロセスのデジタル化によるコスト削減と効率性の向上
- 製品の開発、認可取得、発売までのリードタイムを短縮



患者さんの安全と
持続可能性



OLYMPUS
Elevate

(スライド18)

- 経営戦略でお示した通り、QARA強化のために今後3年間で約600億円を投資します。これらの投資は、複数のプロジェクトが関わっているため明確に分類することが難しく、FDAからの指摘事項に対する是正活動と品質変革プロジェクトへのどちらにも投じられる予定です。そこで、FDAからの指摘事項に対する是正活動と品質変革プロジェクトを一つの総合的なプログラムに統合し、これを「ELEVATE」と名付けました。
- ELEVATEは、製品のライフサイクルマネジメントの改善や、業務プロセスのデジタル化によるコスト削減と効率性の向上、製品の開発、認可取得、発売までのリードタイムの短縮といった効果が持続的に期待でき、イノベーションや成長、収益性向上を実現する重要な施策の一つになると考えています。
- 繰り返しにはなりますが、FDAからの警告書によって指摘された課題への対処は、当社にとって最優先事項です。これと同時に、オリンパスの潜在能力を最大限に引き出すとともに、この根本的な変革の機会を逃すことなく、持続的な成長の実現に繋げてまいります。

持続的な成長に向けた基盤構築

さまざまな要因により、今期は厳しい成長見通しであるものの、持続的な成長と価値創造を中期的に実現するため、戦略的優先事項に投資を実行

持続的な成長に向けた取り組み

基本的な指針

患者さんの安全と持続可能性



- ✓ FDAからの指摘事項に対する是正活動は順調に進捗
- ✓ 総合的な変革プログラム「ELEVATE」を開始

成長のためのイノベーション



- ✓ EVIS X1の認可取得と販売地域拡大
- ✓ 前立腺肥大症低侵襲治療デバイスiTindの市場拡大に向けた取り組みを推進

生産性の向上



- ✓ 効率性向上のための枠組みの確立

(スライド19)

- 今ご説明させていただいたQARA分野以外においても、当社が持続的な成長と価値創造を中期的に実現するために、3つの基本的な指針への投資や取り組みを実行しておりますので、本日はその一部をご紹介します。



EVIS X1の認可取得と販売地域拡大

当社最大の収益の柱である戦略的基幹製品EVIS X1を全世界で展開し、持続的な成長を促進

EVIS X1によって期待される成長可能性

日本、欧州、アジア・オセアニアにおける消化器内視鏡および気管支鏡の売上高推移



FY20 FY21 FY22 FY23

発売後3年間の
年平均成長率

約 **7%**

従来モデルからの潜在的な
買い替え需要



*前世代のビデオプロセッサ
(CV-190、CV-290) の販売台数

売上割合

約 **50%**

NEW 北米

2023年10月 (FY2024 3Q) より販売開始

NEW 中国

2023年11月 (FY2024 3Q) より販売開始

約 **50%**

日本

FY2021より販売開始

欧州**

FY2021より販売開始

アジア・オセアニア***

FY2021より販売開始



“日本、欧州、アジア・オセアニアも買い替え需要は継続しており、持続的な成長を期待”

欧州は一部CIS諸国を除く *アジアオセアニアは一部地域を除く

(スライド20)

- FDAからの指摘事項に対する是正活動および品質変革プロジェクトの一つとして、私たちは必要なケイパビリティを強化し、規制当局の承認を得るための体制とプロセスを全面的に見直しました。
- そして、消化器内視鏡システムEVIS X1は、米国では想定通り、中国では予定より早く発売することができ、現在、全世界で販売されています。数年前に発売した市場に加え、今後は米国と中国でも安定した成長とキャッシュフローをもたらすと期待しています。中国では、反腐敗運動によりスロースタートとなる可能性はありますが、北米と中国は当社の消化器内視鏡分野の売上高のうち全体の約50%を占める重要な市場であり、今後の業績拡大のドライバーとして大いに期待しています。



内視鏡医療の質向上に貢献するEVIS X1



TXI – 構造色彩強調機能

内視鏡診断時の、粘膜表面の「構造」「色調」「明るさ」の3つの要素を最適化することで、病変部などの観察性能向上に貢献



RDI – 赤色光観察

出血部分の観察と止血処置を容易にし、治療時間の短縮と患者さんへの負荷の軽減や、内視鏡治療後の遅発性出血の回避に貢献



NBI – 狭帯域光観察

より鮮明でクリアな明るい画像が得られ、血管や粘膜表面の視認性向上に貢献



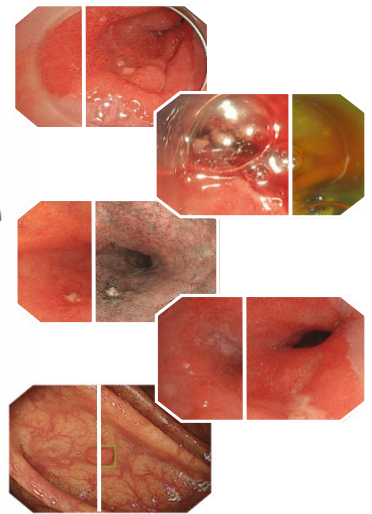
EDOF – 被写界深度拡大技術

高い観察倍率を持ちながら、広い範囲でピントが合うことに加え、解像度の高い画像を得られる



ENDO-AID – 大腸病変の検出支援アプリケーション

高度なAI技術で病変候補を自動的に検出し、腺腫検出率（ADR）の向上に貢献



(スライド21)

- 先月、ヨーロッパや日本などで開催された学会で、医療従事者とお話する機会が何度もありました。フィードバックは非常にポジティブで、特に当社がイメージング技術の次の次元に到達した点は高く評価されています。
- そこで、競合他社に先駆け、当社が市場で独自のポジションを獲得した機能をいくつかご紹介します。
- EVIS X1は、当社の最も先進的な内視鏡システムであり、消化器疾患の検出、特性評価、治療の方法に革新をもたらす、高い操作性を兼ね備えた複数の優れた技術を導入しました。
- イメージングの進歩には、TXI、RDI、NBI、EDOF、ENDO-AID CAdEが含まれます。
- EVIS X1はヨーロッパで最初に発売されて以降、世界中の内視鏡医から評価をいただき、好調に推移しています。最近では、「EVIS X1プラットフォームの画像処理能力によって、私たちは以前よりも早期に病変や消化器がんを診断できるようになりました。」とのお声をお客様から頂いております。
- また、EVIS X1は、内視鏡処置やスコープの操作性を最適化するために、診断と治療の両面からイノベーションを提供します。
- 当社は、今後もEVIS X1によって医療水準の向上に貢献してまいります。



治療機器事業の強固なパイプラインを通して、差別化されたソリューションを提供

経営戦略の施策に沿って着実に進捗しており、引き続き持続的な成長を目指す

消化器処置具



- 内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）/内視鏡的粘膜切除術（EMR）、ENDOCUFF VISION*1、EndoClot*1等の製品群において二桁成長を達成
- 買収*2により幅広いラインアップを獲得し、メタリックステントのポートフォリオを強化。胆道や食道、大腸、十二指腸治療における選択肢を拡大し、**当社のグローバルポジションを急速に強化していく**

呼吸器科



- EVIS X1気管支鏡と内視鏡用超音波観測装置EU-ME3を**今後の成長ドライバー**として期待
- 気管支鏡検査および肺がんの診断とステージ分類において、**患者さんのアウトカムを最適化する有意義な技術革新を提供**することに尽力

泌尿器科



- シングルユース尿管鏡により、医師の選択肢を拡大
- レーザー/超音波結石破碎装置で**シェア拡大**
- 成長ドライバーの一つであるPLASMA+ Technologyシステムは**堅調な成長を継続**
- **差別化された前立腺肥大症低侵襲治療デバイス**によって優れた臨床成果を提供し保険適用を拡大し、医療水準の向上に貢献*3

*1 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております *2 Taewoong Medical社の買収のクロージングは未定
*3 ITindによる治療は、永久的インプラントが不要で、性能や排尿機能が維持でき、術後のカテーテル留置の必要性も低減。外来治療にも対応

(スライド22)

- 次に治療機器事業の注力領域の状況についてご紹介いたします。治療機器事業の売上成長率はFDAからの指摘事項に対する是正活動の影響をより強く受けており、サプライチェーン関連の課題が継続している状況ですが、基本的な方針は変わっておりません。
- 消化器処置具では、当社の消化器科のポートフォリオを補完する存在として、ERCP、ESD、止血・検体採取デバイスなどの幅広いポートフォリオを構築し、差別化を図っています。米国における上期の売上高は2桁成長となっており、この分野において強力な競争力を誇っています。
- 皆さまにご案内差し上げている通り、当社はTaewoong Medical社と買収のクロージングに向けて最終的な話し合いを進めています。同社の製品は当社のポートフォリオを補完し、メタリックステント・ポートフォリオが将来の重要な成長ドライバーになると見込んでいます。
- 呼吸器科においては、気管支鏡・EBUSスコープにおいて市場をリードしており、今後シングルユース気管支鏡などを含めて、この分野が再び成長していくと期待しています。
- 最後に泌尿器科です。上部尿路においては、オリンパスは結石破碎用の新しいツリウムファイバーレーザーを初めて導入した企業であり、レーザーシステムとレーザーファイバーの双方においてトップシェアを確保しています。
- 下部尿路に関しても、膀胱がんと前立腺肥大症（BPH）の治療ソリューションにおいて、同様に強力かつ市場をリードするポートフォリオを揃えています。堅調な成長を継続しているPLASMA+ Technologyシステムが成長を牽引していくことを見込んでいます。

前立腺肥大症低侵襲治療デバイスiTind*1の市場拡大に向けた取り組みを推進

成長のための
イノベーション



米国医師会CPT委員会は、iTind*1に対してCPTコード設定を発表
2025年1月からの適用を想定



iTind



臨床的利点

- 前立腺肥大症の症状の早期改善に貢献
- 前立腺組織の切開や加熱が不要
- 永久的な器具の留置が不要
- 他の治療に伴う合併症を避けることに貢献

患者さんのメリット

- 性機能や排尿機能を維持したまま、不快なカテーテル留置の必要性を低減
- 入院の必要がなく簡単な処置で挿入できるため自宅で療養可能

医療提供者のメリット

- 2023年、米国CMS*2はHOPD*3またはASC*4でiTind**を使用した場合の保険適用を増額
- 代替治療と比較して、症例にかかる時間および費用の削減に貢献

“より多くの患者さんと医師がiTind*1を利用できるようになり、ケア・パスウェイの強化および医療水準の向上に寄与”

*1 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

*2 CMS = Centers for Medicare & Medicaid Services

*3 HOPD = Hospital Outpatient Department

*4 ASC = Ambulatory Surgery Center

Page 23 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

(スライド23)

- 本日は、その中でも泌尿器科の中長期的な成長ドライバーとして期待している、iTindについてご紹介します。
- iTindは、前立腺肥大症の症状の早期改善に貢献する低侵襲治療デバイスであり、前立腺組織の切開や加熱、永久的な器具の留置を必要とせず、他の治療に伴う合併症を避けることに貢献します。
- 患者さんにとっては、性機能や排尿機能を維持したまま、不快なカテーテルを必要とせず、入院せずに簡単な処置で挿入できるため、自宅で療養できるのも特徴です。
- このiTindに対して、2023年10月20日に米国医師会（American Medical Association）CPT委員会がCPTコードというクリニック向けの償還コードを設定する決定を発表し、2025年1月から適用されることを想定しています。
- すでに病院外来（HOPD）とASC（Ambulatory Surgical Center）での保険償還は取得していますが、iTindは低侵襲デバイスで日帰り治療が可能なおことからクリニックでのニーズが高いため、今回のCPTコードの取得により、さらに多くの患者さんと医師が当社の新しい手技を利用できるようになります。
- CPTコードが適用される米国は全世界のBPH患者の約4割を占める地域であり、iTindは今後の泌尿器科領域の成長を牽引していくことが期待されます。



効率性向上のための枠組みの確立

グローバル・オペレーティングモデル

目標

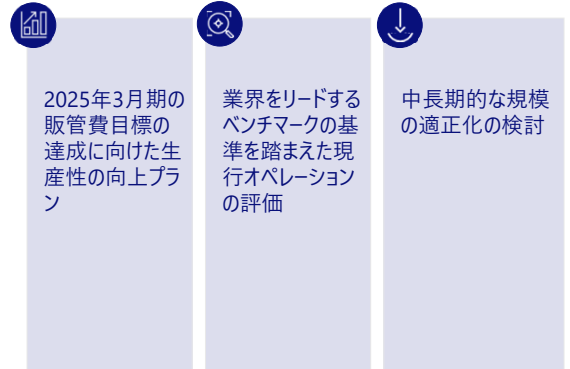
グローバル・オペレーティングモデルを最適化することで、イノベーションを推進するための資本を確保し、世界をリードするメドテックカンパニーとしてよりハイパフォーマンスな組織となる



グローバルにおける生産性の向上

目標

オペレーティングモデルの最適化に向けた短期的・長期的な取り組みを明確にし、効率的で無駄のない経営を実現



(スライド24)

- 続いて、「生産性の向上」のための取り組みをご紹介します。
- 今期から、当社はさまざまな事業のコングロマリットではなく、医療機器専門企業になりました。
- 現在、グローバルな損益の全責任を負う部門を組織のトップに据え、目標とKPIを一致させ、責任の所在を明確にした上で、すべてのサポート機能を垂直化するオペレーティングモデルを構築しています。
- 当社はすでに2025年3月期の生産性向上の目標を設定しておりますが、加えて来期はさらなる標準化と効率性の向上を追求するため、より構造的なアプローチを採用し、グローバル組織のベースラインの確立、貢献度の明確化、業界のベンチマーク基準を踏まえた評価に取り組んでまいります。



キャピタルアロケーション

キャピタルアロケーション

- ✓ 成長ドライバーへの優先的な投資
- ✓ 安定的かつ段階的な増配
- ✓ 機動的な自己株式の取得



(スライド26)

- キャピタルアロケーションですが、事業投資を最優先に、イノベーション、事業、M&Aへの投資を行う方針に変わりはありません。M&Aについては、注力する消化器科、泌尿器科、呼吸器科における既存の疾患領域において、当社のポートフォリオに合致し、既存のビジネスを補完・増強するためのタックインM&Aの機会を通じて製品ポートフォリオを継続的に強化してまいります。
- 株主還元は、これまでと同様に安定的かつ段階的な増配を目指し、運転資金および投資のための十分な手元流動性を確保した上で、余剰資金がある場合には、自己株式の取得を検討してまいります。

株主還元：800億円の自己株式の追加取得を決定

“ 2025年3月期、2026年3月期もキャピタルアロケーションの方針に基づき、
運転資金および投資のための十分な手元流動性を確保した上で、
自己株式の取得を積極的に検討 ”



* 2023年3月31日時点の発行済み株式数（自社株除く）を基に算出
** 2023年9月31日時点の発行済み株式数（自社株除く）を基に算出

(スライド27)

- 本日公表した通り、自己株式の取得については800億円の追加を決定し、2024年3月期における自己株式の取得価額の総額は1,800億円を予定しています。
- なお、年間の配当予想18円を含む、2024年3月期の総還元性向は69.5%となる見通しです。
- 来年2025年3月期、そして、2026年3月期もキャピタルアロケーションの方針に基づいて自己株式の取得を積極的に検討してまいります。
- 今後も資本効率を高めるとともに、株主の皆さまに適切なリターンを提供することを念頭に、資本の配分を行ってまいります。



2026年3月期には、1桁台半ばの売上高成長率と
20%の調整後営業利益率の達成を目指します



売上高成長率*	約5% CAGR from FY2023
EPS成長率**	約8% CAGR from FY2023
営業利益率**	約20%

* 為替前提を固定
** 特殊要因調整後
- その他の収益および費用等を除く
- 為替レート変動による影響は調整せず。実際の為替レートを使用

(スライド28)

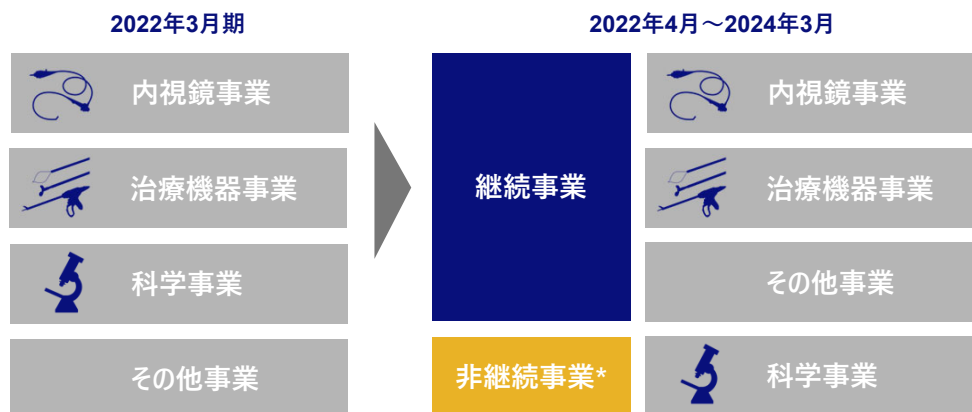
- こちらが最後のスライドとなります。本日は第2四半期の決算説明会であり、2026年3月期までの中期目標を皆様にお伝えするタイミングではありません。しかしながら、今後2年間、そしてそれ以降、財務KPIがどのように推移していくのか、その見通しをお伝えさせていただきます。
- トップラインについては、品質改善への取り組み、政治的・経済的要因、サプライチェーン関連の課題など、一時的な逆風を受けています。しかし、私たちには優れた事業と適切な戦略があると信じており、このような影響を軽減し、株主価値を守る施策を展開しています。
- 2025年3月期には、FDAからの指摘事項に対する是正活動は完了せず、今期見られた政治的かつ経済的な逆風も継続すると考えています。時期尚早ではありますが、来期の売上高成長率についてはV字回復を期待していないものの、今期の水準を上回ると見込んでいます。
- EPS成長率のガイダンスには、本日発表した800億円の自社株買いや、為替の影響は含まれておりません。2024年3月期は総額1,800億円の自社株買いを行い、さらには2025年3月期と2026年3月期も積極的な自社株買いを検討する予定であり、EPS成長率は目標とする8%を大幅に上回ることを目指します。グローバルメドテックカンパニーであるためには、資本効率を業界トップクラスにする必要があり、当社にはまだまだ改善の余地があります。
- 生産性向上の施策はすでに開始していますが、販管費や利益に効果が表れるのは2026年3月期になる見通しです。
- 2026年3月期には、財務ガイダンスとしてお示している1桁台半ばの売上高成長率、20%の調整後営業利益率を達成できると考えています。
- 2026年3月期以降は、より効率的なグローバル・オペレーティングモデルによる売上高の成長により、利益率が20%を超えて着実に拡大する体制が整うことを期待しています。ありがとうございました。

参考資料

OLYMPUS

開示の変更点

2024年3月期第1四半期に科学事業（エビデント）の譲渡を完了したことに伴い、
2023年3月期第2四半期より2024年3月期までは科学事業を非継続事業として開示（国際会計基準）

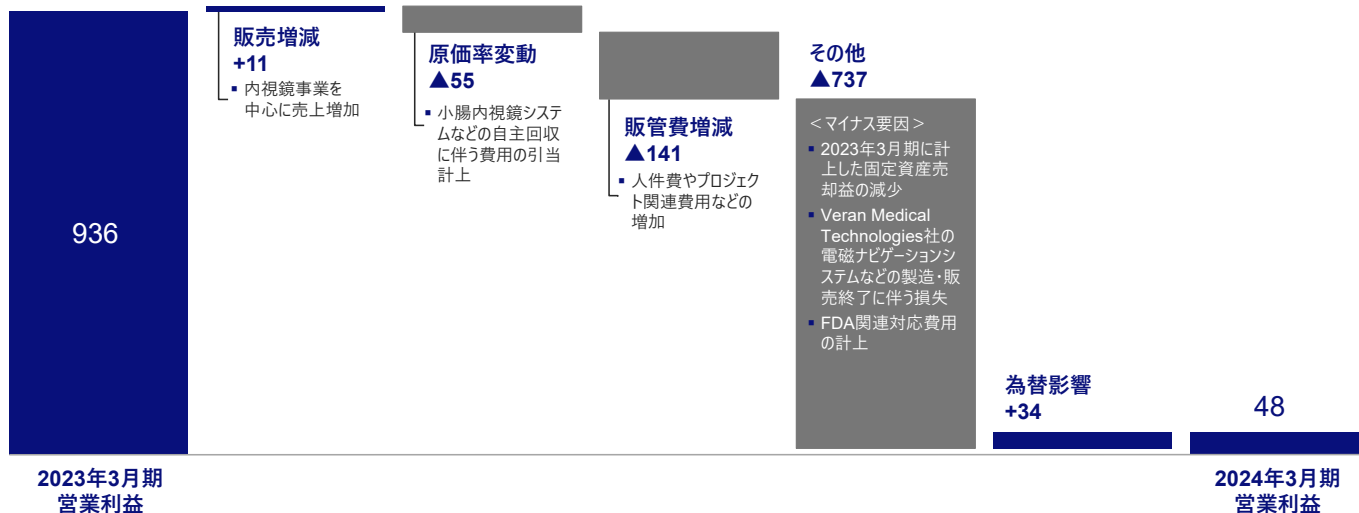


- 連結業績では、非継続事業からの当期利益（損失）を開示
- 参考資料として、非継続事業（科学事業）の業績を開示

*2023年3月期第2四半期連結会計期間において、当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社である株式会社BCJ-66との間で科学事業の譲渡に関する株式譲渡契約を締結しました。売上高、営業利益、税引前利益、継続事業からの四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。なお、2023年4月に全株式の譲渡を完了しています

2024年3月期 第2四半期実績 連結営業利益増減要因

第2四半期実績（4-9月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

2024年3月期 第2四半期実績 セグメント別概況

第2四半期累計実績（4-9月）					第2四半期実績（7-9月）				
（単位：億円）	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	為替影響調整後	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	為替影響調整後	
内視鏡	売上高	2,585	2,709	+5%	+1%	1,416	1,437	+1%	▲3%
	営業利益	689	509	▲26%	▲33%	441	287	▲35%	▲38%
治療機器	売上高	1,529	1,597	+4%	0%	806	825	+2%	▲2%
	営業損益	298	▲285	▲583億円	▲572億円	164	▲382	▲547億円	▲523億円
その他	売上高	57	61	+8%	+3%	26	27	+2%	▲4%
	営業損益	▲8	10	+18億円	+18億円	▲5	11	+16億円	+16億円
全社・消去	営業損益	▲43	▲186	▲143億円	▲140億円	▲109	▲93	+16億円	+18億円
連結合計	売上高	4,171	4,366	+5%	0%	2,248	2,289	+2%	▲2%
	営業利益	936	48	▲95%	▲99%	491	▲177	▲668億円	▲656億円
（参考）非継 続事業	売上高	527	0	-	-	309	0	-	-
	営業損益	▲49	3,482	-	-	▲11	6	-	-

その他損益

前年同期比

(単位：億円)	FY2023 2Q累計	FY2024 2Q累計	増減
その他の収益	194	25	▲168

主な収益科目			
	土地売却益 164	コラーゲン事業譲渡益 11	

その他の費用	51	643	+592
--------	----	-----	------

主な費用科目			
	Transform Olympus等費用 17	Veran Medical Technologies社関連損失 496	
		FDA関連対応費用 119	
		開発資産減損 10	

通期見通し比

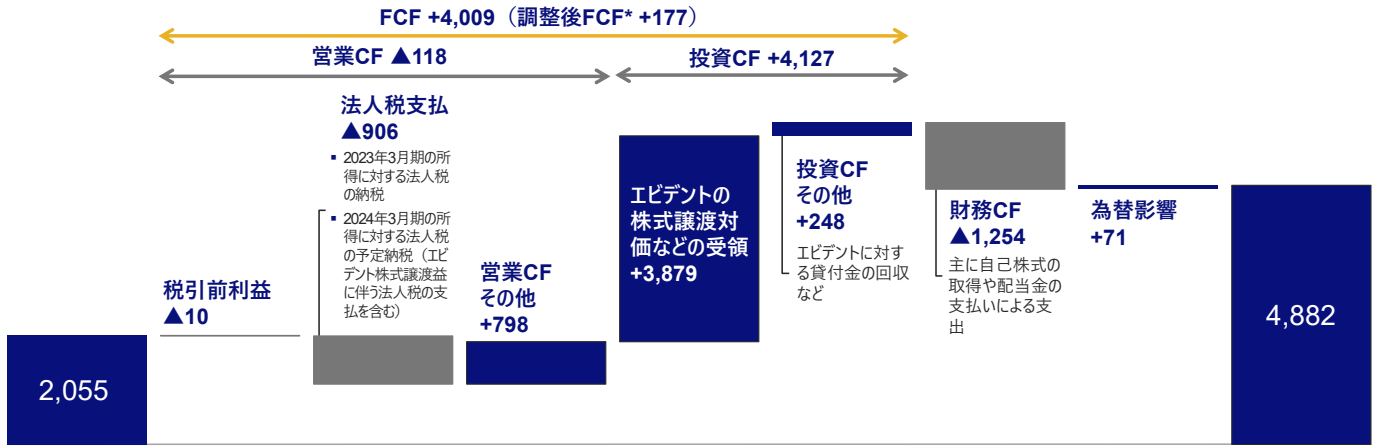
(単位：億円)	FY2023	FY2024	増減
その他の収益	237	35	▲202

主な収益科目			
	土地売却益 164	コラーゲン事業譲渡益 11	
	Medi-Tate条件付対価戻入 13		

その他の費用	139	780	+641
--------	-----	-----	------

主な費用科目			
	Transform Olympus等費用 24	Veran Medical Technologies社関連損失 510	
	開発資産減損 18	FDA関連対応費用 200	
	FDA関連対応費用 19	開発資産減損 10	

連結キャッシュフロー 増減要因



2023年3月末
現金および現金
同等物期末残高

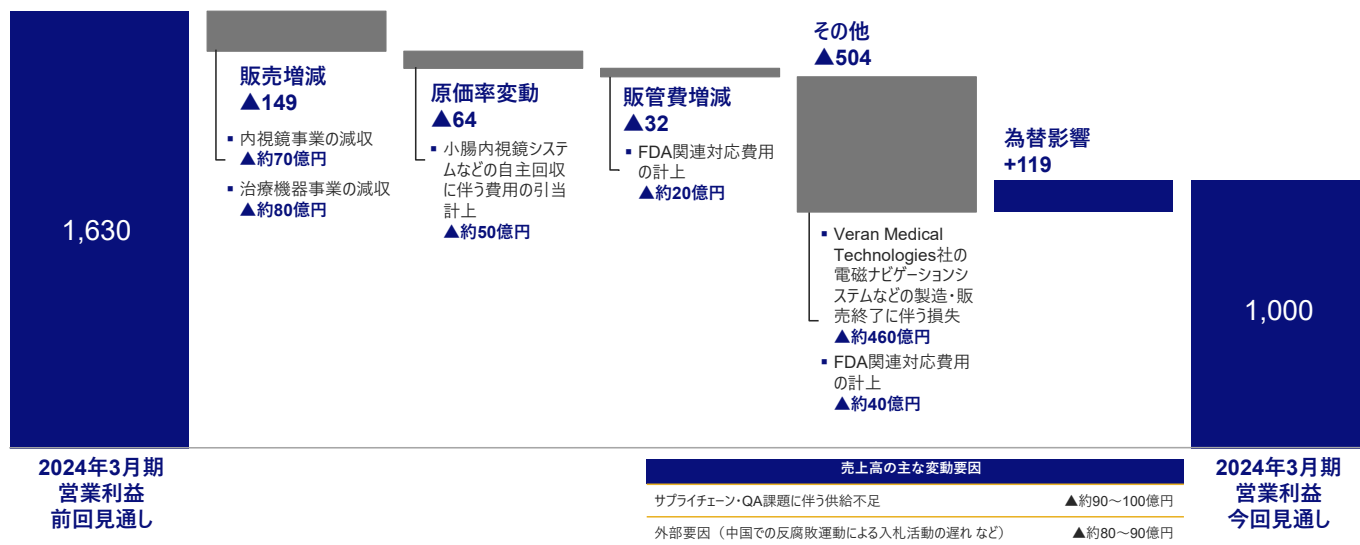
2024年3月期第2四半期 (4-9月) の主な特殊要因

営業CF：エビデント株式譲渡益に伴う法人税の支払	▲567億円
投資CF：エビデント株式譲渡対価などの受領	+3,879億円
投資CF：エビデントに対する貸付金の回収	+520億円

2023年9月末
現金および現金
同等物期末残高

2024年3月期業績見通し 連結営業利益増減要因（前回見通し比）

2024年3月期通期 8月9日公表見通し比



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2023年11月9日時点)



2024年3月期の内視鏡事業における重点施策

- 欧州、日本、アジア一部地域において、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を拡販
- 米国は2024年3月期中頃に「EVIS X1」を導入することを目指し、中国は導入準備を進める
- 欧州、日本で次世代超音波内視鏡システムの導入を準備
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化し、中国では売上を拡大
- 外科内視鏡分野においては、次世代外科内視鏡システムの導入により、収益性を改善

現在の主力製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)
- EVIS LUCERA ELITE (中国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (米国、欧州、日本、中国)
- VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国、中国)
- EU-ME3 (欧州、日本、アジア・オセアニア)

外科内視鏡

- VISERA ELITE III (欧州、日本、アジア・オセアニア)

中長期のパイプライン

消化器内視鏡

- シングルユース十二指腸内視鏡
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (日本、米国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE III (米国)

3%

2024年3月期
売上高成長率¹

1 為替影響調整後の成長率

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2023年11月9日時点)



2024年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイスなど主要カテゴリーにおいて、臨牀的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 肺がん分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力
- 「EVIS X1」プラットフォームの導入促進を継続し、気管支鏡の強みを強化

現在の主力製品

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- レゼクト電極
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州、アジア・オセアニア)

呼吸器科

- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム
- EVIS X1 気管支鏡 (日本、欧州、アジア・オセアニア)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科

- 1製品 (米国)
- 6製品 (欧州)
- 5製品 (日本)
- 1製品 (中国)

泌尿器科

- ESG-410 (米国、日本、アジア・オセアニア)
- シングルユース尿管鏡 (米国、アジア・オセアニア、日本)
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System (日本)
- iTind (米国、欧州、アジア・オセアニア)
- レゼクト電極 (中国)
- 硬性尿管鏡 (中国)

呼吸器科

- 新超音波気管支鏡 (米国、中国)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)
- 超音波プロセッサ (欧州、日本、アジア・オセアニア)

中長期のパイプライン

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- 膀胱鏡
- カメラヘッド
- ビデオプロセッサ

呼吸器科

- 細径超音波気管支鏡
- EVIS X1 気管支鏡 (中国)

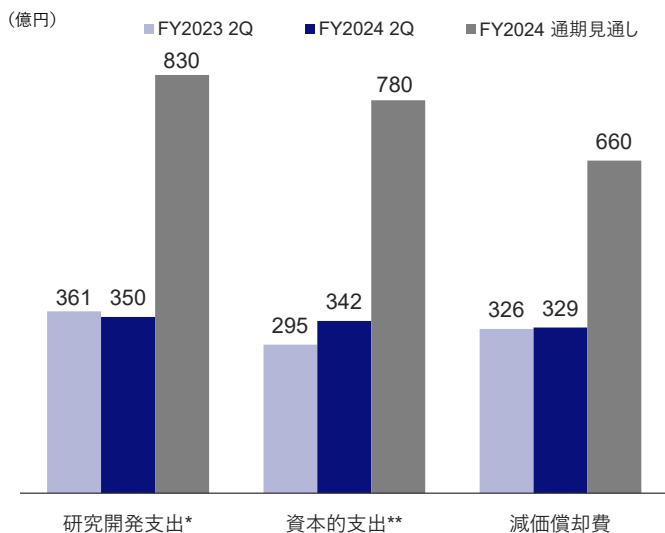
1%

2024年3月期
売上高成長率¹

*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております
1 為替影響調整後の成長率

投資など

第2四半期実績（4-9月）および通期見通し



(単位：億円)	FY2023	FY2024
研究開発支出* (a)	361	350
開発費資産化 (b)	56	62
損益計算書上における研究開発費 (a-b)	305	288

(単位：億円)	FY2023	FY2024
償却費	39	42
	2023年6月末	2023年9月末
開発資産残高	599	608

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています
 **資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。(FY2023 2Q：43億円、FY2024 2Q：69億円、FY2024 見通し：90億円)

為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1か月間の平均値を原則としている

為替

(単位：円)	FY2023 1Q	FY2023 2Q	FY2024 1Q	FY2024 2Q	前回見通し	FY2024 最新見通し
円/ドル	129.57	138.37	137.37	144.62	132	145
円/ユーロ	138.12	139.34	149.47	157.30	144	155
円/人民元	19.58	20.19	19.56	19.94	19	20

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	25	7
ユーロ（1円あたり）	16	6
人民元（1円あたり）	58	35

*為替感応度（年間）はFY2023Q4実績より算出しています。